

**第 21 回腸内細菌学会プログラム**  
**「腸内細菌の機能研究とオミックス研究の融合**  
**—Host-microbiota relationship の解明—**

会 期：2017年6月15日（木）～16日（金）

会 場：神戸市産業振興センター「ハーバーホール」（神戸市中央区東川崎町 1-8-4）

大会長：山村秀樹（ビオフェルミン製薬）

参加費：会員 6,000 円 一般 8,000 円 学生 1,500 円（事前登録）

          会員 8,000 円 一般 10,000 円 学生 2,000 円（当日登録）

参加事前登録：平成 29 年 3 月 1 日（水）～5 月 12 日（金）

大会 URL：<http://bifidus-fund.jp/meeting/index.shtml>

お問い合わせ：公益財団法人日本ビフィズス菌センター事務局

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-12

TEL: 03-5319-2669 FAX: 03-5978-4068 e-mail: jbf@ipecc-pub.co.jp

<学会プログラム> ※ プログラムは変更になる場合がございます。

**6 月 15 日（木）9:50-18:00**

（午前）

●一般演題 A 発表

（午後）

●海外特別講演

Christian Jobin（Professor of Medicine, University of Florida, USA）

「The complex impact of intestinal microbiota in cancer」

●シンポジウム 1『マイクロバイオーームと宿主の恒常性』

①福田 真嗣（慶應義塾大学）

「腸内細菌叢由来代謝物質がもたらす宿主恒常性」

②土肥 多恵子（国立国際医療研究センター研究所）

「消化器の摂食応答とマイクロバイオーーム」

③金 倫基（慶應義塾大学）

「乳幼児期における Clostridiales 目細菌の獲得は腸管病原菌の定着抵抗性を制御する」

④富田 秀太（岡山大学）

「皮膚マイクロバイオーームの恒常性」

⑤松木 隆広（(株)ヤクルト本社中央研究所）

「乳児腸内フローラの形成に影響を与えるビフィズス菌の遺伝特性」

●一般演題 A ポスター発表（8F）

●情報広報会（10F レセプションルーム）

**6月16日（金）9:20-17:40**

（午前）

- 一般演題 B 発表
- 招請講演 藤本 孝明（日本生菌製剤協会 会長）  
「生菌製剤百年をふり返る」

（午後）

- 特別講演  
高井 研（海洋研究開発機構）  
「極限環境微生物から見える生命の限界と起源、そして地球外生命の存在」
- ピフィズス菌センター研究奨励賞授賞式・受賞講演

●シンポジウム 2 『マイクロバイオーームと病態』

- ①奥村 利勝（旭川医科大学）  
「過敏性腸症候群とマイクロバイオーーム」
- ②渡辺 俊雄（大阪市立大学）  
「薬剤性小腸傷害とマイクロバイオーーム」
- ③中島 淳（横浜市立大学）  
「非アルコール性脂肪肝 NASH・NAFLD における腸内細菌と腸内メタボローム解析」
- ④阿部 高明（東北大学）  
「腸内細菌叢コントロールによる腎不全治療」
- ⑤山下 智也（神戸大学）  
「腸内細菌と循環器疾患」

以上